

◆ Yokoso Obara Innkai

Take Free [0円]

# おばらのじかん

— 第28号 —  
2023 Summer

巻頭  
特集

じつは身近で頼れる存在！

## おばらの福祉

福祉施設がとっても充実!?

食生活改善推進員

【小原福祉ビレッジ】

【小原福祉センター・地域包括支援センターって】

【豊田市民には嬉しい温泉付休養施設 寿楽荘】

【マンガイカくんキンちゃんの小原日記】

【小原いろいろ情報】



小原人集まれ! 「おばちゅう卒」  
www.facebook.com/obachuu

おばちゅう  
以外でもOK

巻頭特集

おばらの福祉

小原にはいろいろな福祉施設があります。名前や場所は知っていても、どんなことをしているの？実はあまり知られてない福祉施設を取材してきました。



全景



陶芸の様子



小原福祉ビレッジの石畳ふれあい朝市の様子



小原福祉センターふくしの里での五平餅つくりの様子



農作業の様子



小原福祉センターふくしの里でのディサビズでの運動の様子



寿楽荘の貸切の介助浴場の車いす対応昇降式浴槽

小原福祉ビレッジ

今回お話を聞かせていただいたのは「小原福祉ビレッジ」緑に囲まれ、静かで広々とした、気持ちの良い場所に施設があります。「社会福祉法人昭徳会」が運営し、その理念は「一人一人に思いやりの心を持って接し、尊重し、その人に合った支援、援助をします。お互いに助け合い、よりよい生活ができるよう努めます(抜粋)」 「福祉」と聞くと高齢者が利用するものと思いがちですが、ここには様々な「福祉」がありました。



寮長の成瀬さん(左)とスタッフの竹川さん(右)

「利用者」の主な取り組み  
「陶芸教室」では主に日常使いのコップやお皿を作製。型を抜く人、成形する人、カップの取手をつける人、絵付けをする人と分担して作業をしています。作られた作品は金山駅の福祉の店、石畳ふれあい朝市、とうえい温泉などで販売されています。

「小原福祉ビレッジ」には3つの施設があります。「小原寮」は障がい者施設(19歳以上)で、「小原学園」は障がい児施設(18歳以下)です。そして、「小原安立」は特別養護老人ホーム・高齢者グループホーム事業を行う施設となります。今回は「小原寮」を取材させていただき、寮長の成瀬友昭さんにお話を伺いました。

地域交流行事

「軽トラあんどんパレード」では、四季桜のあんどん作りに参加しました。また、小原中部小学校との交流として、一緒に給食を食べたり、ゲーム、踊り、歌などを通して交流を深めたりしました。その他「小原文化まつり、四季桜まつり、石畳ふれあい朝市」などに参加し、利用者の作品や陶器、野菜を販売し地域の方と交流しています。



陶芸教室の様子



素敵な刺繍作品



集中して刺繍を作る様子

植え、販売の全ての工程に利用者者が関わり、みんなで協力して野菜作りをしています。例年は地域行事で販売していましたが、コロナ禍により関係職員への販売が中心となっています。「軽作業」では、パズル、碁石の色分け、トランプの柄合わせ、割り箸やビーズを使つての感触遊びなど、利用者のスキルに応じた活動を行っています。一人一人が少しでも楽しく時間を過ごせるよう教材や内容を工夫していました。

昭徳会の目指す福祉とは「周囲の人(利用者・職員・地域)に喜ばれる存在(職員・施設・法人)になること。でもそのためには地域の方の理解、協力が必要です。この取材を通して感じたことは、「福祉」とは利用する方だけではなく私達の身近にあり私達で作っていくもの。そのために、どんな取組をしているのかを知り、協力し参加していくことを始めようと思えました。

M.K  
A.N

施設を案内していただいている様子





デイサービスでの運動の様子



支所長の浦川さん

小原福祉センター「ふくしの里」は、沢田町の小高い丘の上に建っており、そこには通称「社協」と呼ばれる「豊田市社会福祉協議会小原支所」と「地域包括支援センター」が設置されています。「社協」は社会福祉法人で「公益性」「公益性」の高い民間組織です。全国に設置されており、そのネットワークを活かした活動をしています。「安心して自分らしく生きられる支え合いのまちづくり」を基本理念に、地域福祉活動の推進、福祉サービス利用支援、在宅福祉サービスの推進などに力を注いでいます。

「社協」という名前は聞いていても、実際の活動内容はあまり知らない、という方もいらっしゃるかもしれません。実は私もその一人でした。今回は今年支所長として赴任して来られた浦川岳夫さんに詳しいお話を伺うことができました。まず「ふくしの里」の建物を案内していただくと、談話コーナー、和室の集会室、食堂、研修室など、どの部屋も日差しが差し込み、明るい造りになっています。広い浴室は大きな銭湯のようで、一般の人も有料で入浴することができます。残念ながら温泉ではないですが、食堂からの話し声、廊下を散歩する人など、和やかな雰囲気伝わってきます。

よく知られている活動のついでに「デイサービス」があります。「デイサービス」は介護保険で要介護・要支援の認定を受けた人と地域包括支援センターが日常生活の状況や心身の状態等の基本チェックをし、介護予防生活支援サービス事業の対象となる人が閉じこもりと介護予防を目的とした「ますますクラブ」と呼ばれるサービスもあります。ここでは利用者さんが物作りやお出かけ等で介護予防をしており、6月の取材時には「草木染め」があり、玉ねぎの皮を煮出し、染料を作るなどのお手伝いをさせていただきました。



手打ちうどん作りの様子



グランドゴルフを楽しむ様子



ミーティングの様子

た。絞り染めをするのに、糸をきつく巻いたり、糸の始末をしたり、つい手を差し伸べてしまいそうになりますが、スタッフの人たちが「○○さん、自分でできるよね？」と励ましながら寄り添っている姿が印象的でした。元気なスタッフと、輪をかけて明るい利用者さんたちの和気あいあいとした活動の日でした。

また、豊田市に住む方なら年齢に関係なく誰でも300円で参加することができる「いきいき教室」もあります。これは小原地区全戸に2か月毎に配布されている「いきいき教室巡回バスカレンダー」に記載してある教室です。3月の取材時には五平餅作りが行われており、高齢者と春休みの子どもたちが一緒に「飯炊きから始まる二連の作業を楽しんでいました。この教室は「手打ちうどん作り」「手作りチーズ」など興味深いものも多く、講師は小原地区の方々を中心に年間25種類もありますよ。開催日時は「いきいき教室巡回バスカレンダー」を見てください。巡回バスが行かない地域の方は桜バスで行けます。

また、児童生徒の長期休暇期間中は和室の研修室を開放し、子どもたちが宿題、交流などができる居場所を提供する「自由教室」も開かれ、誰でも参加することができま

その他あまり知られていないサービスで福祉用品、車いす、車いす用福祉車両の時貸出などもあります。車いすの方の病院送迎などに便利で、車両は燃料費のみで借りることができます。「社協」は相談支援も充実しており、困難を抱える世帯、または高齢者、障がい者、子どもとの相談支援、成年後見制度の相談など、市民のあらゆる生活上の相談にも応じています。

「社協」をより理解したい方、家族の介護が必要になった時のため見学をしたい方、また何か自分のできるボランティアを希望される方など、是非、この機会に一度訪れてみてください。明るく親切な支所長、スタッフの方が皆さんの訪問をお待ちしています。

Y.K

地域包括支援センターって？

社協とともにふくしの里に入っている「ふくしの里包括支援センター」。ここは、小原地区の高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、介護福祉保健医療などの相談を受ける総合相談窓口です。

地域包括支援センターには主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士が常駐していて、チームで活動しています。それぞれの専門性を活かし、介護や健康、高齢者の権利を守るための相談などに対応しています。必要に応じて医療機関やケアマネジャー、介護サービス事業者、行政機関、民生委員などと連携し、高齢者の生活を地域のネットワークで総合的に支えています。

豊田市には、「ささえあいネット」高齢者見守りホットライン」というネットワークがあります。地域の飲食店、コンビニエンスストア、新聞販売店、医療機関、介護サービス事業所などと協力して地域の高齢者を見守り支えています。例えば、飲食店で毎週食へに来てくれる人が最近来なくなった、新聞が何日も溜まっている、コンビニエンスストアで毎日同じものを買っているなど、普段と違う行動に気づき、地域の高齢者をあたたかく見守っていく活動です。

小原地区の高齢者のみなさんが暮らしやすい地域を作るために支援をしています。まずはなんでもご相談ください。

「小原地区ふくしの里包括支援センター」  
電話六五一二六〇〇

A.N

豊田市民には嬉しい  
温泉付休養施設

寿楽荘



矢作川沿に建てられた自然豊かな寿楽荘の外観

寿楽荘は、豊田市の公共施設で、現在は地元の高齢者や観光客の健康増進などを目的とし、宿泊も可能な温泉付休養施設として運営されています。優先となる豊田市高齢者クラブ連合会に登録されている団体には、無料の送迎バスが手配されるのも嬉しい特典。高齢者以外のご利用も可能な施設となっており、大広間や、会議室も完備し、子ども会行事、部活合宿、企業の研修などにも多数利用されているそうです。

温泉の日帰り入浴や宴会、宿泊も利用できます。車いすの方でも安心して使えるバリアフリーの洋室や、専用の車いすのまま入浴できる貸切浴場があり、これらの設備は車いすを使う方から大変好評をいただいています。※注意、貸切浴場では、寿楽荘の従業員は入浴の介助をしません。介助が必要な方が利用する場合には限り、混浴で利用できます。また、貸切浴場はどなたでもご利用が可能です。

また、自慢のお風呂の内湯は、加水なしの100%天然ラジウム温泉。循環させていますが、1日の営業時間中に浴槽の温泉が、最低でも2回以上入れ替わる新湯をかけ流し。温泉の新鮮さ、衛生面に自信が有るようで、計算上では、浴槽の湯を5時



追加費用不要の貸切の介助浴場(予約優先)。しかも車いす対応昇降式浴槽も完備!



バリアフリーの洋室

間々6時間に一度全て入れ替えているという贅沢さです！ただし、内湯にすべて注ぐ構造の為露天風呂は温泉ではないのですが、大自然に囲まれた露天風呂は入るべきです。気持ちのよいこと請け合いです。

寿楽荘では地元の小原や旭を中心としたスタッフで、アットホームでのんびりできる環境を心がけているので、その雰囲気もおススメ。是非、お爺ちゃんお婆ちゃん含む、ご家族でゆったりと料理に自然に天然ラジウム温泉を心ゆくまで楽しめる寿楽荘は、イチオシの施設です。

T.S



料理も評判です!

# 小原で養蚕業の復活を試みる「とよた衣の里プロジェクト」に伺いました。



桑畑の前で都築さんと大林さん

## 小原地区で「とよた衣の里プロジェクト」といって、かつては豊田の基幹産業でもあった、養蚕を復活させる事業をされている大林優子さん、都築浩二さんにお話を伺いました。お二人はこやかに、小原ではじめて経緯から話してくれました。聞くと思わずに縁が重なって小原で始めようと思えたそうです。それは、小原で最後まで養蚕をやっていた家族を紹介してもらったら、以前仕事で関わっていた人だったこと。桑畑は、自然農でやりたいと思っていたら、自然農をやっていた人の元桑畑が空いたこと。都築さんの奥さんが小原出身で小原だったら手伝えるよと言ってくれたこと。そんな縁で導かれるように2020年の植樹祭を機にこのプロジェクトが始まりました。このプロジェクトはAIなどのハイテクの時代に、人が自然と関わる機会が少なく、自然から離れていくことを案ずる気持ちがあるそうです。

しかし、事業を始めたものの前途多難。持続を考えると畑を増やすための資金が必要でした。そして、豊田市の市民活動などを応援してくれる団体に相談し、クラウドファンディング(以降クラファン)に挑戦したそうです。そして、クラファンを

行ったことで、いろいろなことが一気に進んだと話してくれました。はじめは二人だけで始めたプロジェクトでしたが、「WE LOVE」とよたフェスタ」に参加したり、更に今年5月に小原交流館で開催された「親子共育フェス」にも参加することに繋がったそうです。普段から小原に来ているとはいえず、畑の作業だけだったので、小原地区の方と触れ合える良いきっかけになったと話してくれました。

今後は気軽に養蚕が体験でき、コミュニティにもなるような「小さな養蚕家」ということを考えているそうです。「小さな養蚕家」とは気軽に家の隅で短期間(2週間)でお蚕さんを育てるといふもの。お子さんの体験などには最適で、もし興味のある方は連絡がほしいそうです。同時に仲間になってくれる方も募集中とのこと。

「なんでそんな儲からないことをしているの?と聞かれます。資金が大変だけど、支援してくれる人が現れたり、奇跡的な縁の広がりや希望をもっています。」とも、キラキラとした笑顔で話してくれました。

@とよた衣の里プロジェクト  
T.S



クラウドファンディングの返礼イベント「見学会・体験会」の様子



## ◆小原いろいろ情報

- 〔8月15日(火)〕小原夏まつり〜花火大会(小原ふれあい公園)
- 小原地区の夏まつり。盆踊りや間近で見られる打ち上げ花火や、手筒花火は必見です
- 〔10月7日(土)〕軽トラあんどんパレード(小原の山道に連なる軽トラあんどんは見応えあり)
- (和紙のふるさと駐車場発)
- 〔10月29日(日)〕小原文化まつり
- 小原歌舞伎公演(小原交流館)
- 小原歌舞伎の公演をはじめ、小原地区の芸能や交流館講座の発表会
- 〔11月〕小原四季桜まつり(小原地区)
- 秋に咲く桜を一覧いただけます。小原ふれあい公園の出口は11月11日〜11月30日
- 〔11月18日(土)〕おぼらマルシェ with 和紙良いフェスタ(和紙のふるさと)
- 作家さんとのワークショップや、地元のお店も多数出店するクラフトマーケット

### おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク   
www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

小原の情報ページ(おばちゅう以外の人もOK!)  
『おばちゅう卒』是非登録してね!  
www.facebook.com/obachuu



### 編集後記

人口3,200人余りの小原地区ですが、福祉施設の充実度、手厚さに感動しました。社協さんの「安心して自分らしく生きられる支え合いのまちづくり」、私も何か自分のできるところで協力していきたいと強く思っていました。 Y.K.(今回編集長)

コロナ前に小原福祉ビレッジ夏まつりに行った際、小原学園の子どもたちが太鼓を叩いたり、皆さん笑顔でも楽しかった福祉事業はこれから地域の人たちともっと交流を深め、何か新しい形のものでできていきそうだとこれから目が離せない。 M.K

今回から"ようこそおばら委員会"の一員となった小原っ子です。小原寮を取材して知らなかった人々の生活を知り色々と考えました。今の自分に出来る事は、色々な分野の方の話を聞き、現実を知るのだと思いました。 A.N

小原は実は福祉施設が充実していることをあまり知られていないと感じていたので、今回取り上げられてよかった。田舎と福祉の相性はとても良いと感じました。また、健常者の大きな働き場所ともなっていることも知れました。 T.S